

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
国語表現 Writing Japanese		1年・2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教養実践)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
国語の表現力をさらに高めたいと考えている人には「国語基礎教養」の受講が望まれる。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
就職試験への対策を考えている人は複数の「基礎教養」科目の受講が望まれる。				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大室 精一 ・ 佐藤 康弘	大室研究室(福祉棟3階)、又は講師室(講義棟1階)	水の9時～16時(授業時間除く)		授業中に指示します
授業の概要				
①昔話の学習(あらすじをメモする→印象深いシーンをイラストで描く→昔話の特色を解説する。) ②テキストの学習(第一章「自分を磨こう」、第二章「会話の達人」、第三章(小論文)、第四章「実用文」を講義する。) ③演習問題(毎時間「自己PR」「賛否両論」「年賀状作成」等の別テーマで書く。) ④漢字練習・国語常識(漢字は「読み書き」「難読語」等を扱い、国語常識では「四字熟語」「故事成語」等を扱う。)				
授業の目標				
①昔話の学習(昔話の理解が深まり、その特色を文章やイラストで表現する力を身に付けることができるようにする。) ②テキストの学習(就職に役立つ「会話力」「履歴書」「ビジネス文書」の基本を身に付けることができるようにする。) ③演習問題(様々なテーマによる活動を通して、表現能力を高めることができるようにする。) ④漢字練習・国語常識(常用漢字の力と国語常識を身に付けることができるようにする。)				
授業の方法				
この授業の方法は、以下の3項目となる。 ①講義が中心になるが、一部に演習形式(自己PR・ディスカッション等)を含む。 ②毎時間プリントによる学習であり、表面は「昔話・テキスト関連・国語常識」、裏面は「漢字練習」である。 ③プリントの最後に「本日の授業で考えたこと」を記入して学習内容のポイントを確認する。質問も同時に記入する。				
学習の成果(学習成果)				
昔話の印象深いシーンを、文章とイラストで表現する力を身に付けることができる。テキストの学習を通して、職業人として必要な会話力・小論文・ビジネス文書・常用漢字等の基本を身に付けることができる。又、課題の小論文「私の人生を変えた一冊の本」では、自己分析の基本を身に付けることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス(勉強の心構え・講義計画・プリント・課題・成績評価等について) プリント学習(漢字練習)			
第2回目	テキスト第一章「自分を磨こう」 漢字・国語常識	演習→「自己PR」の短文	昔話の世界「猿と蟹」	
第3回目	テキスト第一章「家族と会話せよ」 漢字・国語常識	演習→「賛否両論」の練習	昔話の世界「三匹の子豚」	
第4回目	テキスト第二章「会話の達人」 漢字・国語常識	演習→「10年後の自分」を描く	昔話の世界「おむすび」	
第5回目	テキスト第二章「社会人の会話」 漢字・国語常識	演習→「賛否両論」の練習	昔話の世界「花咲か爺さん」	
第6回目	テキスト第二章「面接・スピーチ」 漢字・国語常識	演習→「コボちゃん」の想像	昔話の世界「裸の王様」	

第7回目	テキスト第三章「文章上達法」 漢字・国語常識	演習→「賛否両論」の練習	昔話の世界「鴨とり」
第8回目	テキスト第三章「小論文・作文」 漢字・国語常識	演習→「詩歌イメージ」の絵	昔話の世界「かちかち山」
第9回目	テキスト第三章「小論文タブー」 漢字・国語常識	演習→「賛否両論」の練習	昔話の世界「舌切り雀」
第10回目	テキスト第三章「細心の注意」 漢字・国語常識	演習→「ラブレター」を書く レポート「私の人生を変えた一冊の本」提出	昔話の世界「わらしべ長者」
第11回目	テキスト第三章「原稿用紙」 漢字・国語常識	演習→「賛否両論」の練習	昔話の世界「桃太郎」
第12回目	テキスト第四章「手紙のルール」 漢字・国語常識	演習→「年賀状」の作成	昔話の世界「醜いあひるの子」
第13回目	テキスト第四章「葉書のルール」 漢字・国語常識	演習→「賛否両論」の練習	昔話の世界「一休さん」
第14回目	テキスト第四章「履歴書」 漢字・国語常識	演習→「道順」の説明	昔話の世界「浦島太郎」
第15回目	テキスト巻末ワークシートの確認 漢字・国語常識	演習→「賛否両論」の練習	昔話の世界「人魚姫」
事前・事後学習	事前学習（テキストを通読し、疑問点を整理しておく）・事後学習（返却プリントを毎時間確認する）		

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	45%	毎時間プリントを配布し、授業後に回収して、授業への参加態度を記入状況により評価する。45点満点：毎時間のプリントを3点満点で評価(すべて記入なら優→3点、良→2点、可→1点)×15=15～45点
レポート	15%	「私の人生を変えた一冊の本」の課題の、表現力と自己分析の深さを記入状況により評価する。15点満点：課題の提出点が10点、レポートの完成度により1～5点を加える。
調査報告書		
小テスト		
試験	40%	16週目に実施。大テーマによる論述問題(2問)で10点、授業全体から短答式の設問(15問)で30点の試験。40点満点：論述問題は記入してあれば5点、完成度により1～5点を加える。短答式は1問2点。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

教科書：『就職に役立つ日本語表現法』（田上貞一郎著・萌文書林・1600円＋税） 参考書・参考資料：授業担当者より適宜紹介するが購入の必要はない。

履修上の留意点・ルール

毎回授業でプリントを配布し回収して添削・評価を行うので、欠席した場合は「オフィスアワー」を利用して補講を受ける。
--